

平成26年9月定例会市議会市政報告

平成26年第4回釧路市議会9月定例会の開会にあたり、6月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

報告に先立ち、7月から始まりました今年の釧路の夏祭りは、好天にも恵まれ多くの市民の皆さんの参加をいただき、それぞれ、盛会裏に終了することができました。特に、先週の「釧路大漁どんぱく」は、入込も37万1千人と過去最高の人出となり、中でも花火大会は、港町釧路の夏を美しく煌びやかに彩る最高の花火となりました。

これもひとえに、ご尽力いただいた関係者の皆様のおかげであり、感謝を申し上げますとともに、議員の皆様のご協力に対しまして御礼申し上げます。

最初の報告は、「**釧路—中部線復活における運航状況**」についてであります。

日本航空の釧路—中部線につきましては、平成22年5月以降休止されておりましたが、今年度、8月の1か月間、週3往復（火・木・土）の運航により復活したところでございます。

この中部線の復活により、夏季の釧路空港は、羽田線6往復、伊丹線、そしてこの中部線と日本の3大都市圏からの運航が確保されたこととなります。

釧路—中部線の利用状況については、目標としていた80%を大幅に超え、速報値ではございますが利用率が87.4%、乗降客数は3,748人となるなど大変好調に推移した状況にございます。

これは、「涼しい釧路」のPRを継続して地道に行ってきたこと、今年度から実施している航空会社のWEBサイトでの釧路地域のPRや名古屋でのプロモーション等、航空会社とのタイアップによるPR活動を拡充した成果であると考えております。

今後、この結果を受け、関係機関と協力し、より一層釧路地域の魅力を発信していくとともに、航空会社に対し、来年度の運航継続はもちろん、毎日運航や運航期間の延長等、釧路空港の利便性向上に向けた要請活動を行ってまいりたいと考えております。

報告の第二は、「**新図書館整備の検討状況**」についてであります。

新図書館整備にあたりましては、引き続き、新図書館整備市民検討委員会を

開催し、新図書館に整備すべき機能について議論していただくと共に、アンケートの実施や市民説明会の開催など、市民の皆さまから幅広くご意見をいただきながら検討を進めているところです。

市民検討委員会では、地域の情報拠点としての役割や課題解決型サービス等、新図書館に整備すべき機能について様々なご提案をいただいたほか、これまでの検討委員会における議論の内容を反映させたフロア構成のイメージ案をお示しし、具体的なイメージの中で機能の検討を行っていただきました。

また、市民の皆様のほか、図書館利用者、児童・生徒を対象としたアンケートを実施し、その結果についてご説明いたしました。8月7日には、新図書館整備に関する提言に向けて様々なご意見をいただき、昨日、これまでの検討結果をまとめた提言書を市民検討委員会より提出いただいたところです。

このほか、新図書館整備方針の説明会を7月13日及び8月30日に開催し、市立釧路図書館を民間ビル内に設置することにつきまして、方針を持つに至った経緯や理由についてご説明し、市民の皆さまとの意見交換を行ったところです。

9月20日には、改めて、単独整備、民間ビル内への設置など、整備手法別の事業費比較や現在の検討状況等について説明会の開催を予定しております。

また、10月から図書館基本計画の中間見直し作業を進めることとしており、引き続き、市民検討委員会の皆様にご意見をいただきながら、年内には計画見直しに関するご提言をいただく予定となっております。

本提言をふまえて作成する図書館基本計画素案のパブリックコメントを経て、2月議会に同計画案をお示ししたいと考えております。

報告の第三は、「**武修館高等学校甲子園出場に伴う市の支援**」についてであります。

先月開催された夏の甲子園大会に、市内の高校としては、35年ぶりに武修館高等学校が出場いたしました。

青森県代表の八戸学院光星高等学校との素晴らしい熱戦は、私たち市民に大きな感動を与えていただいたところであります。

このたびの同校の甲子園出場に際しまして、市といたしましては、市民の皆様の応援気運が高まるよう、市役所前庭への激励看板やMOOの壁面に懸垂幕を設置したほか、港まつりにおいては、激励メッセージを入れたうちわ7千本を配布したところであります。

また、スポーツ振興助成条例及びカケハシ青少年育成基金に基づく助成金

(835千円)とは別に、新たに第96回全国高等学校野球選手権大会補助金要綱を制定し、補助金(1,000千円)を交付いたしました。

その他に、「くしろ阿寒百年水」20箱を宿舍に送り、選手と応援にかけつけた関係者に配布するなど、様々な支援に努めたところです。

8月17日の試合当日は、私も現地へ出向き3塁側アルプススタンドにおいて、手に汗を握り、まさに熱い一戦を応援することができましたことは、この上ない喜びでありました。

このたびの武修館高等学校の甲子園出場を契機として、市内の各高校が互いに競技力を高め、今後、連続して甲子園に出場することを心から期待するものです。

報告の第四は、「**釧路アイスアリーナにおけるネーミングライツ事業の実施**」についてであります。

ネーミングライツ事業は、財政健全化推進プランの一環として、民間事業者との協働による新たな自主財源を確保することにより、公共施設の安定的な維持管理及び運営を行うものとして導入を検討してまいりました。

このたび、釧路アイスアリーナにおいて、当市初のネーミングライツ事業を実施することとし、ネーミングライツ・スポンサーを公募いたしました結果、日本製紙株式会社から応募があり、選定委員会を開催し、日本製紙株式会社から提案された施設の愛称等について審査した結果、同社をネーミングライツ・スポンサーとすることを決定したものであります。

施設の新たな愛称につきましては、「日本製紙アイスアリーナ」であり、契約期間は、平成26年9月1日から平成28年3月31日までの、1年7ヶ月となっております。

今後、新たな愛称である「日本製紙アイスアリーナ」が、施設を利用される競技団体をはじめ、広く市民の皆様にも親しまれるものとなりますよう、広報くしろや市のホームページ等を通じて、周知に努めてまいります。

また、日本製紙クレインズが新たな愛称となったホームリンクで練習に励まれ、昨シーズンに引き続き、アジアリーグの制覇など、活躍されることを期待しております。

報告の第五は、「**工事発注状況**」についてであります。

本年度の建設事業の発注予定額は、約119億7,000万円となっており、8月31日現在における発注済額は約95億2,000万円であり、発注率は、およそ

79.5%となっております。このうち、地元企業への発注は、金額で約 80 億 2,000 万円、率では約 84.2 %であります。

主な建設事業別の発注率につきましては、道路事業が約 69%、上水道事業で約 82%、下水道事業で約 64%、住宅建設事業は 96%の状況となっております。

今後とも地域経済の動向を念頭に置き、工事の早期発注に努めてまいります。

以上で、市政報告を終わります。